

# 入札説明書

1 物件名 令和7年度福島森林管理署揮発油等単価契約

2 予定数量 揮発油（レギュラー） 8,500ℓ  
灯油（白） 1,200ℓ

3 契約期間 自 令和7年4月1日  
至 令和8年3月31日

4 入札公告日 令和7年1月29日

## 5 入札執行日及び開札時間

(1) 令和7年3月11日10時01分 入札締切・即時開札

(2) 電子調達システムにより参加する場合

令和7年3月7日9時00分から令和7年3月11日10時00分までに電子調達システム上で送信して入札すること。

(3) 紙入札方式により参加する場合

令和7年3月11日9時50分までに入札場所へ入札書を持参の上、入札すること。入札書は封緘し、封筒には入札者の氏名、あて名及び物件の名称を記載し、入札書在中の旨表示すること。郵便入札も可とするが、郵便入札を行うときは、入札公告4(1)の場所に書留郵便又は配達証明郵便で、令和7年3月10日17時00分までに到着（必着）することとし、入札書の日付は令和7年3月11日とする。ただし、再度の入札は引き続き行うので、郵便入札を行った場合は、再度の入札に参加できないことに留意すること。

6 入札執行会場 福島森林管理署 1階 入札室

## 7 競争参加資格

入札公告2(1)から(4)に定めた条件のほか、次の条件を満たすこと。

(1) 別紙1「調達対象官署一覧」に示す、No. 1～4の官署全てについて、各官署の所在する市町村内に給油所又は代行給油所（高速道路内にあるものを除く）を確保できること。

(2) 揮発油について、入札参加希望者の給油所又は代行給油所（高速道路内にあるものを除く）において共通して利用できる給油カードを無料で発行できること。

(3) 納品した揮発油等の請求について、月締めで翌月の15日迄に行えること。

## 8 提出資料

入札公告のとおり、下記証明書等を令和7年2月27日15時00分までに福島森林管理署総務グループ（経理担当）に提出すること。

提出方法は入札公告5（2）及び（3）による。

### 【証明書類等】

- 1 令和4・5・6年度 資格審査結果通知書（全省庁統一資格）の写し
- 2 別紙1「調達対象官署一覧」
- 3 別紙2 発行する給油カードの概要

## 9 配付資料

- (1) 契約書・仕様書（案）
- (2) 入札書・入札内訳書
- (3) 委任状の作成例
- (4) 証明書等（様式）

※入札にあたっては、関東森林管理局署競争入札心得を熟読すること。



## 条 件

第1条 売渡人（以下乙という。）は、契約期間中買受人（（以下甲という。）（甲の職員を含む。以下同じ））に引渡すべき物品について、その品質規格を保証するものとする。

第2条 物品の数量は、頭書のとおり予定するが、これに異動を生じ又は納品皆無のものがあっても異議を申し立てないものとする。

第3条 乙は、契約締結後において給油用のカード又は給油伝票を発行し、契約期間中買受人（以下甲という。）が、契約物品の引渡を請求したときは、甲の指定した職員が指示した数量を計量器をとおして、自動車又は甲の指示する容器に注入するものとする。

2 乙は、上記1項の物品を納入する際、品質・規格・数量等に関し甲の検査を受けなければならない。この検査に合格したときをもって契約物品の引渡を完了したものとし、所有権はこの時をもって甲に移転するものとする。

第4条 給油する各月の契約単価については、市場価格に応じて変動するものとし、下記のとおり算出の上決定する。

(1) 経済産業省資源エネルギー庁が発表する「給油所小売価格調査」の福島県のレギュラーガソリン、灯油の価格（消費税額及び地方消費税額を差し引いた価格（小数点以下を四捨五入して整数で算出）。以下、「市場価格」という。）の令和7年3月分（第1回目調査分）の価格から落札価格を差し引いた額を値引き額とし、毎月、前月分（最終調査分）の市場価格から値引き額を差し引いた価格を当該月の契約単価とする。

(2) 乙は令和7年4月の契約単価について、(1)に基づき算出の上、令和7年4月1日に書面にて甲へ提出するものとする。

(3) 乙は令和7年5月以降の契約単価について、(1)に基づき算出の上、当該月の前月末までに書面にて甲へ提出するものとする。

第5条 この契約による確定金額（以下「代金」という。）は、第3条による検査に合格し、納品書を交付した総数量に契約単価を乗じて得た金額とする。なお、算出した金額に小数点以下の端数がある場合は切り捨てるものとする。

第6条 乙は、前条の代金について、契約期間経過後において支払請求書を甲に提出しその支払を受けるものとする。

2 甲は、適法な支払請求書を受理した日から30日以内に代金を支払うものとする。

第7条 乙は、代金について、毎1箇月分を取りまとめて甲に請求することとする。

2 前項による支払については、前条第2項の規定を準用する。

第8条 乙は、甲の帰する事由により約定期間に代金を支払わないときは、甲に対して遅延利息を請求することができる。

2 前項の遅延利息は、遅延日数に応じ、請求金額に対して政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項に基づく遅延利息率を乗じて計算した遅延利息の額とする。ただし、遅延利息の額が100円未満であるときは、甲

は、前項の規定にかかわらず遅延利息を支払うことを要しない。また、100円未満の端数については、その端数を切り捨てるものとする。

3 前2項の場合において、支払遅延が天災等やむを得ない理由によるときは、当該理由の継続する期間は、これを約定期間に算入せず、また、遅延利息を支払う日数に計算しない。

第9条 所有権移転後の物品であっても、甲が頭書の規格、品質に適合しない下級品があると認めるときは両者の協議により、乙は当該数量について引換又は値引をするものとする。

2 乙の責に帰すべき事由により、甲の所有物に損害を与えたときは、乙は甲の指示に従いその損害を賠償するものとする。

第10条 乙は、この契約に属する権利又は義務を第三者に譲渡し又は継承させることはできない。ただし、甲の書面による承諾を得た場合は、この限りではない。

第11条 乙は、指定期日までに納品することができないときは、書面をもって申し出て甲の承認を得なければならない。

第12条 乙は天災その他不可抗力による場合を除き、納入期限までに物品を納入できないときは、遅延日数に応じ、当該遅延物品の数量に当該契約単価を乗じて得た金額に、年3パーセント割合で計算した額を遅滞違約金として、甲に支払うものとする。

2 甲は、乙が納入期限までに義務を履行しなかったことにより生じた直接及び間接の損害について、乙に対してその賠償を請求することができる。

第13条 納品された契約物品が種類、品質又は数量に関して契約の内容に適合しない（以下「契約不適合」という。）場合は、甲は、自らの選択により、乙に対し本契約物品の修補、代替物の引渡し又は不足分の引渡しによる履行の追完（以下単に「履行の追完」という。）を請求することができる。ただし、乙は、甲に不相当な負担を課するものでないときは、甲が請求した方法と異なる方法による履行の追完をすることができる。

2 前項に規定する場合において、甲が相当の期間を定めて履行の追完の催告をし、その期間内に履行の追完がないときは、甲は、その不適合の程度に応じて代金の減額を請求することができる。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、催告をすることなく、直ちに代金の減額を請求することができる。

(1) 履行の追完が不能であるとき。

(2) 乙が履行の追完を拒絶する意思を明確に表示したとき。

(3) 契約の性質又は当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行しなければ契約をした目的を達することができない場合において、乙が履行の追完をしないでその時期を経過したとき。

(4) 前三号に掲げる場合のほか、甲がこの項の催告をしても履行の追完を受ける見込みがないことが明らかであるとき。

3 甲が、契約物品の履行の追完を請求した場合で、履行の追完期間中契約物品を使用できなかったときは、甲は、当該履行の追完期間に応じて第10条第2項の規定に準じて計算した金額を乙に対し請求することができる。

4 甲は第1項に規定する契約不適合により生じた直接及び間接の損害について、乙に対してその賠償を請求することができる。

5 甲は、契約物品の種類又は品質に関する契約不適合が発見された場合は、発見後1年

以内に乙に対して通知するものとする。

6 履行の追完に必要な一切の費用は、乙の負担とする。

第14条 甲は下記各号の一に該当する場合において、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約の全部又は一部を解除することができる。ただし、その期間を経過したときにおける債務の不履行がその契約および取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りではない。

- (1) 乙が契約上の義務を履行しないとき、又は乙が契約を履行する見込みがないと甲が認めたとき。
- (2) 第3条による検査に合格しなかったとき。
- (3) 第12条第1項で規定する契約不適合が重大と認める場合又は乙が同項に規定する甲の請求に応じないとき。
- (4) 前三号に定めるもののほか、乙がこの契約のいずれかの条項に違反したとき。
- (5) この契約の履行に関し、乙に不正又は不誠実な行為があったと甲が認めたとき。

第15条 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当するときは、直ちに契約の解除をすることができる。

- (1) 債務の全部の履行が不能であるとき。
- (2) 乙がその債務の全部の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。
- (3) 債務の一部の履行が不能である場合又は乙がその債務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示した場合において、残存する部分のみでは契約をした目的を達することができないとき。
- (4) 契約の性質又は当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行をしなければ契約をした目的を達することができない場合において、乙が履行をしないでその時期を経過したとき。
- (5) 乙に破産手続開始、再生手続開始又は更生手続開始の申立てがあるなど、経営状態が著しく不健全と認められるとき。
- (6) 乙が、制限行為能力者となり又は居所不明になったとき。
- (7) 前各号に掲げる場合のほか、乙がその債務の履行をせず、乙が前条の催告をしても契約をした目的を達するのに足りる履行がされる見込みがないことが明らかであるとき。

2 次に掲げる場合には、甲は、前条の催告をすることなく、直ちに契約の一部を解除することができる。

- (1) 債務の一部の履行が不能であるとき。
- (2) 乙がその債務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。

第16条 債務の不履行が甲の責めに帰すべき事由によるものであるときは、甲は、前2条の規定による契約の解除をすることができない。

第17条 甲は、第14条又は第15条に定める場合のほか、甲の都合により必要がある場合は、この契約の全部又は一部を解除することができる。

第18条 甲は、第12条第2項又は第13条第4項に規定する場合のほか、乙がその責務の本旨に従った履行をしないとき又は債務の履行が不能であるときは、甲は、これによって生じた損害の賠償を請求することができる。ただし、その債務の不履行が契約その他の債務の発生原因及び取引上の社会通念に照らして乙の責めに帰することができな

い事由によるものであるときは、この限りではない。

2 前項の規定により損害賠償の請求をすることができる場合において、甲は、次に掲げるときは、債務の履行に代わる損害賠償の請求をすることができる。

- (1) 債務の履行が不能であるとき。
- (2) 乙がその債務の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。
- (3) 債務が契約によって生じたものである場合において、その契約が解除され、又は債務の不履行による契約の解除権が発生したとき。

第19条 甲は、第12条第2項又は第13条第4項に規定する場合のほか、乙がその責務の本旨に従った履行をしないとき又は債務の履行が不能であるときは、甲は、これによって生じた損害の賠償を請求することができる。ただし、その債務の不履行が契約その他の債務の発生原因及び取引上の社会通念に照らして乙の責めに帰することができない事由によるものであるときは、この限りではない。

2 前項の規定により損害賠償の請求をすることができる場合において、甲は、次に掲げるときは、債務の履行に代わる損害賠償の請求をすることができる。

- (1) 債務の履行が不能であるとき。
- (2) 乙がその債務の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。
- (3) 債務が契約によって生じたものである場合において、その契約が解除され、又は債務の不履行による契約の解除権が発生したとき。

第20条 乙は、甲がこの契約に違反した結果、物品の納入が不可能になったときは、この契約を解除することができる。この場合、甲は乙に違約金を支払わないものとする。

第21条 第14条又は第15条の規定によりこの契約が解除された場合においては、甲は乙に対し、違約金として契約金額の100分の10に相当する額を請求することができる。

2 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項に該当する場合とみなす。

- (1) 乙について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成16年法律第75号）の規定により選任された破産管財人
- (2) 乙について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成14年法律第154号）の規定により選任された管財人
- (3) 乙について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定により選任された再生債務者等

第22条 この契約において、乙から甲に支払うべき債務が生じたときは、代金と相殺することができる。この場合、甲の収納すべき金額が乙の債権額を超過するときは、乙は当該金額を甲の指示するところに従い指定期限までに納付するものとする。

第23条 この契約書に定めていない事項については、必要に応じ甲乙協議して定めるものとする。

第24条 この契約について、紛争を生じたときは、甲乙協議して定める第三者の調停によって解決するものとする。

第25条 甲は、この契約に関し、乙が次の各号の一に該当するときは、契約の全部又は一部を解除することができる。

- (1) 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人に対して私的独占の禁止及び公正取引の確保

に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第7条又は第8条の2（同法第8条第1号又は第2号に該当する行為の場合に限る。）の規定による排除措置命令を行ったとき、同法第7条の2第1項（同法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。）の規定による課徴金納付命令を行ったとき又は同法第7条の4第7項若しくは第7条の7第3項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。

- (2) 乙又は乙の代理人（乙又は乙の代理人が法人にあつては、その役員又は使用人を含む。）が刑法（明治40年法律第45号）第96条の6若しくは第198条又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号の規定による刑の容疑により公訴を提起されたとき。
- 2 乙は、この契約に関して、乙又は乙の代理人が前項各号に該当した場合には、速やかに、当該処分等に係る関係書類を甲に提出しなければならない。

第26条 乙は、この契約に関し、次の各号の一に該当するときは、甲が前条により契約の全部又は一部を解除するか否かにかかわらず、契約金額の100分の10に相当する額を違約金として甲が指定する期日までに支払わなければならない。

- (1) 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人に対して独占禁止法第7条又は第8条の2（同法第8条第1号又は第2号に該当する行為の場合に限る。）の規定による排除措置命令を行い、当該排除措置命令が確定したとき。
- (2) 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人に対して独占禁止法第7条の2第1項（同法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。）の規定による課徴金納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき。
- (3) 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人に対して独占禁止法第7条の4第7項又は第7条の7第3項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。
- (4) 乙又は乙の代理人（乙又は乙の代理人が法人にあつては、その役員又は使用人を含む。）に係る刑法第96条の6若しくは第198条又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号の規定による刑が確定したとき。
- 2 乙は、前項第4号に規定する場合に該当し、かつ次の各号の一に該当するときは、前項の契約金額の100分の10に相当する額のほか、契約金額の100分の5に相当する額を違約金として甲が指定する期日までに支払わなければならない。
  - (1) 前項第2号に規定する確定した納付命令について、独占禁止法第7条の3第1項の規定の適用があるとき。
  - (2) 前項第4号に規定する刑に係る確定判決において、乙又は乙の代理人（乙又は乙の代理人が法人にあつては、その役員又は使用人を含む。）が違反行為の首謀者であることが明らかになったとき。
  - (3) 乙が甲に対し、独占禁止法等に抵触する行為を行っていない旨の誓約書を提出しているとき。
- 3 乙は、契約の履行を理由として、前2項の違約金を免れることができない。
- 4 第1項及び第2項の規定は、甲に生じた実際の損害の額が違約金の額を超過する場合において、甲がその超過分の損害につき賠償を請求することを妨げない。

第27条 甲が第3条により指定する職員とは、福島森林管理署の「分任支出負担行為担当官」とする。

(特約事項)

別紙1のとおり

暴力団排除に関する特約条項

(属性要件に基づく契約解除)

第1条 甲（発注者をいう。以下同じ。）は、乙（契約の相手方をいう。以下同じ。）が次の各号の一に該当すると認められるときは、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

- (1) 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき
- (5) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(行為要件に基づく契約解除)

第2条 甲は、乙が自ら又は第三者を利用して次の各号の一に該当する行為をした場合は、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

- (1) 暴力的な要求行為
- (2) 法的な責任を超えた不当な要求行為
- (3) 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
- (4) 偽計又は威力を用いて契約担当官等の業務を妨害する行為
- (5) その他前各号に準ずる行為

(表明確約)

第3条 乙は、第1条の各号及び第2条各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ、将来にわたっても該当しないことを確約する。

2 乙は、前2条各号の一に該当する行為を行った者（以下「解除対象者」という。）を再請負人等（再請負人（再請負が数次にわたるときは、全ての再請負人を含む。））、受任者（再委任以降の全ての受任者を含む。）及び再請負人若しくは受任者が当該契約に関して個別に契約する場合の当該契約の相手方をいう。以下同じ。）としないことを確約する。

(再請負契約等に関する契約解除)

第4条 乙は、契約後に再請負人等が解除対象者であることが判明したときは、直ちに当該再請負人等との契約を解除し、又は再請負人等に対し当該解除対象者（再請負人等）との契約を解除させるようにしなければならない。

2 甲は、乙が再請負人等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは再請負人等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該再請負人等との契約を解除せず、若しくは再請負人等に対し当該解除対象者（再請負人等）との契約を解除させるための措置を講じないときは、本契約を解除することができる。

(損害賠償)

第5条 甲は、第1条、第2条及び前条第2項の規定により本契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。

2 乙は、甲が第1条、第2条及び前条第2項の規定により本契約を解除した場合において、甲に損害が生じたときは、その損害を賠償するものとする。

(不当介入に関する通報・報告)

第6条 乙は、自ら又は再請負人等が、暴力団、暴力団員、社会運動・政治運動標ぼうゴ

ロ等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、これを拒否し、又は再請負人等をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当介入の事実を甲に報告するとともに、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

# 仕 様 書

## 1 総 則

福島森林管理署に所属する車両の燃料購入に係る単価契約に当たり、甲と乙（乙の給油所の所員及び代行給油ができる特約店等の給油所（以下、「代行給油所」という。）の所員を含む。）は本仕様書に従って、適正に業務を行うものとする。

## 2 予定調達数量及び納入場所

(1) 予定数量 揮発油 8,500ℓ、灯油 1,200ℓ

所属官署ごとの予定調達数量は、別紙「官署別車両台数一覧表」に記載のとおりである。  
なお、予定調達数量は見込数量であり、実際の購入数量を保証するものではない。

(2) 納入場所

揮発油については、下記3の給油カードを使用することができるすべての給油所の店頭とする（福島県外の給油所も対象）。

灯油については、給油所から別紙「官署別車両台数一覧表」に記載の官署への配達とする。

## 3 給油カードの発行

乙は甲に対し、店頭での給油用として、以下の要件を満たす磁気カード又は電子カード（以下、「給油カード」という。）を発行し、契約期間開始までに納品すること。

- (1) 直営店のほか、代行給油所（高速道路内の給油所を除く）で利用できること。
- (2) 入会金及び年会費等の発行及び利用に係る費用が不要であること。
- (3) クレジット機能を有しないこと。
- (4) 別紙「官署別車両台数一覧表」に記載されている台数分を発行すること。
- (5) 車両の変更又は追加等があった場合は、無償で給油カードの交換、解約又は新規発行ができること。

## 4 給油の方法及び灯油の配達方法等

- (1) 甲は店頭で給油を依頼する場合は、給油カードを用いて発注するものとし、乙は給油完了後、甲に対し給油伝票（納品書）を発行する。
- (2) 代行給油所における給油単価は、本契約の契約単価によるものとし、手数料等の費用が必要な場合は、乙がこれを負担とする。
- (3) 甲が灯油の配達を依頼した場合、乙は配達完了後、甲に対し配達数量を明記した伝票（納品書）を発行する。

## 5 毎月の精算

乙は、毎月末に当該月の使用量を取りまとめ、その代金を翌月15日迄に甲へ請求することとし、その際には、給油カードごとの明細書も添付する。

## 6 その他

- (1) 福島森林管理署を中心とした半径3.0km圏内に給油施設を有すること。
- (2) セルフ給油の施設ではないこと。

<紙入札の場合の様式>

# 入札書

物件の名称 令和7年度福島森林管理署揮発油等単価契約

入札 金額	千万	百万	十万	万	千	百	十	円
----------	----	----	----	---	---	---	---	---

※金額の頭に¥マークをつけること。(消費税は含まない額を記載)

上記金額で関東森林管理局署等競争契約入札心得、契約条項等、仕様書、その他関係事項一切を承知の上、入札いたします。

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
福島森林管理署長 殿

所在地

会社名

代表者氏名

代理人

## 入札内訳書

物件の名称 令和7年度福島森林管理署揮発油等単価契約

揮発油（レギュラー）	単価	円×8,500 <sup>円</sup> =	円
灯油（白）	単価	円×1,200 <sup>円</sup> =	円
計	（入札書に記載する金額）		円

※単価は整数とし、消費税は含まない額とする。

所在地

会社名

代表者氏名

代理人

注意：電子調達システムによる入札の場合は、入札の際、本様式により作成した入札内訳書をPDFデータにして添付すること。  
紙入札による場合は、本様式により作成した入札内訳書を入札書に添付して入札すること。

様式第6号（第4条）

委任状

代理人氏名 関東 太郎

上記の者を私の代理人と定め、下記権限を委任します。

記

- 1 入札年月日 令和 年 月 日 入札日を記入
- 2 件 名 令和7年度福島森林管理署揮発油等単価契約 物件名を記入
- 3 入札に関する一切の件  
令和□年□□月□□日 全省庁資格確認通知書に記載された住所・会社名・代表者役職・氏名を記入(ゴム印でも可)  
委任された日付を記入 住 所 ○○県△△市□□町1-2-3  
商号又は名称 ○△株式会社  
代表者氏名 代表取締役 関東 次郎

分任支出負担行為担当官  
福島森林管理署長 殿

なお、代理人から復代理人に委任をされる場合においても再度委任状が必要となりますので注意してください。

※ 本様式は標準例を示したものであり、上記事項が記載された適宜の様式を使用しても差し支えない。

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
福島森林管理署長 高木 鉄哉 殿

住 所  
会社等名

令和7年 月 日公告  
物件名 令和7年度福島森林管理署揮発油等単価契約

一般競争入札の参加資格の下記証明書類について、別紙のとおり提出します。  
なお、記載事項に関する照会については、下記担当までご連絡願います。  
また、入札公告2（1）、（2）及び（4）に該当しません

記

- ① 令和4・5・6年度全省庁統一資格の審査結果通知書の写し
- ② 別紙1「調達対象官署一覧」
- ③ 別紙2「発行する給油カードの概要」

(担当)

- 1 所属部課名：
- 2 役 職：
- 3 担当者氏名：
- 4 電 話 番 号：
- 5 F A X 番 号：



## 発行する給油カードの概要

1 発行するカードの種類
2 発行に係る手数料について
3 カード紛失時の事務手続きについて
4 毎月の請求の取りまとめ方法について
5 その他

注:パンフレットや利用規約等を添付してもよい